

Indicators Update

2013年11月29日 全6頁

10月消費統計

一時的に悪化したが、11月以降個人消費は増勢を強める見込み

経済調査部
エコノミスト 齋藤 勉

[要約]

- 総務省「家計調査」によると、2013年10月の実質消費支出は季節調整済み前月比0.0%と、前月から横ばいとなった。ただし、振れの大きい住居や自動車などを除いた実質消費支出（除く住居等）で見ると、同▲3.0%と3ヶ月ぶりに減少している。
- 経済産業省「商業販売統計」によると、10月の名目小売販売額は、季節調整済み前月比▲1.0%と3ヶ月ぶりに減少した。10月の小売販売金額は、耐久財で堅調な推移が見られたものの、天候要因で衣料品などの動きが鈍かった。
- 10月の個人消費は悪化したものの、前月大幅に増加した反動や、天候要因の影響が大きいと考えている。消費の減速は一時的なものだろう。11月には、天候要因による影響が剥落すること、好調な動きの続く耐久財でさらに堅調な推移が期待できることなどから、消費は改善に向かうだろう。2014年4月に予定されている消費税増税前の駆け込み需要も徐々に発現し始めることで、個人消費は増勢を強めていく見込みである。

図表1：各種消費指標の概況

		2013年	8月	9月	10月	出所	
		7月					
家計調査	実質消費支出	前年比	0.1	▲1.6	3.7	0.9	総務省
		前月比	0.9	▲0.5	1.6	0.0	総務省
	実質消費支出（除く住居等）	前年比	▲0.4	0.1	1.3	▲3.0	総務省
		前月比	▲0.3	1.1	3.0	2.3	経済産業省
商業販売統計	小売業	前年比	▲1.7	0.9	1.7	▲1.0	経済産業省
消費総合指数		前月比	0.0	0.1	0.7		内閣府
百貨店売上高		前年比	▲2.5	2.7	2.8	▲0.6	日本百貨店協会
コンビニエンスストア売上高		前年比	▲0.8	▲1.4	▲1.6	▲0.8	(一社)日本フランチャイズチェーン協会
スーパー売上高		前年比	▲0.5	0.1	0.4	0.5	日本チェーンストア協会
外食売上高		前年比	0.1	2.0	0.0	▲1.6	(一社)日本フードサービス協会
旅行取扱高		前年比	2.4	2.8	5.0		観光庁

(注) 百貨店売上高、コンビニエンスストア売上高、スーパー売上高の前年比は店舗数調整後。

(出所) 各種統計より大和総研作成

10月の実質消費支出（除く住居等）は3ヶ月ぶりの減少

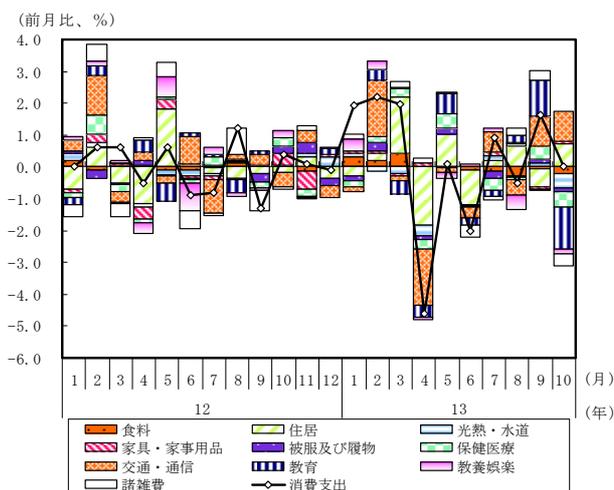
2013年10月の家計調査によると、実質消費支出は季節調整済み前月比0.0%と、前月から横ばいとなった。ただし、振れの大きい住居や自動車などを除いた実質消費支出（除く住居等）で見ると、同▲3.0%と3ヶ月ぶりに減少している。

主要項目の動き：「教育」の大幅減少が全体を下押し。「交通・通信」は増加が続く

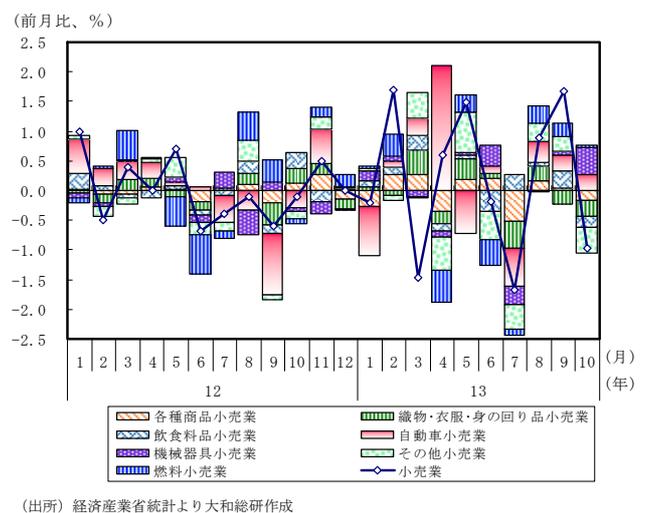
実質消費支出の動きを項目別に見ると、「教育」が前月比▲25.1%と、前月からの反動で大きく減少したことが全体を押し下げた。その他の項目では、「保健医療」が同▲10.3%、「光熱・水道」が同▲6.1%、「諸雑費」が同▲4.6%、「食料」が同▲1.0%、「被服及び履物」が同▲2.5%と幅広い品目で消費の減少が見られている。一方、「交通・通信」は同+7.0%、「家具・家事用品」が同+2.1%、「住居」が同+11.7%と増加した。

「教育」や「保健医療」は前月増加した反動で減少しているが、家計調査のサンプル数が少ないことによる振れであると捉えるべきだろう。「被服及び履物」の減少は、10月の気温が例年と比べて高かったため、季節商材の動きが鈍かったことが要因だとみられる。「食料」は6ヶ月連続の減少となっているが、生鮮品価格の上昇によって購入数量が減少していること、外食の動きも減速傾向が見られることなどによるものである。一方、「交通・通信」や「家具・家事用品」は増加傾向が続いており、耐久財消費は堅調に推移している。夏季賞与や冬季賞与の増加などが、消費者の意識を動かし始めているとも考えられるが、消費税増税に向けた駆け込み需要が出始めている可能性もあり、今後の動向に注視が必要であろう。

図表2：実質消費支出の項目別寄与度



図表3：名目小売販売額の業種別寄与度



商業販売統計の名目小売販売額は前月比▲1.0%と3ヶ月ぶりの減少

供給側から個人消費動向を捉えた商業販売統計の結果を見ると、10月の名目小売販売額は、季節調整済み前月比▲1.0%と3ヶ月ぶりに減少した（図表3）。

業種別に動きを確認すると、「各種商品小売業」は前月比▲1.6%、「織物・衣服・身の回り品小売業」は同▲3.5%と減少した。10月は残暑が続いていたこと、悪天候が続いていたことな

どから、季節商材の動きが鈍かった模様だ。また、「飲食料品小売業」は同▲0.6%と減少した。

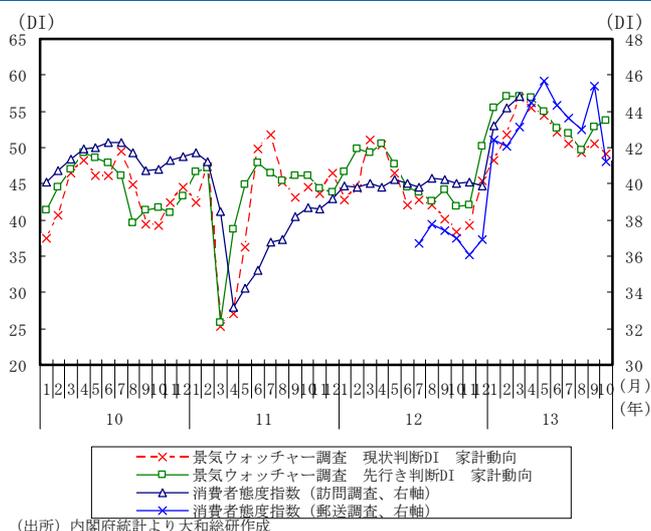
一方、「自動車小売業」は前月比+2.4%と3ヶ月連続で増加した。軽自動車や燃費の良い車種などを中心に、自動車販売は引き続き堅調な推移が続いている。また、「機械器具小売業」は同+6.4%と大幅に増加した。エアコンや冷蔵庫などが好調に推移したことが背景にある模様である。また、「燃料小売業」は同+0.6%と増加した。

10月の小売販売金額は、天候要因で衣料品などの動きが鈍かったものの、耐久財で堅調な推移が見られた。耐久財の販売が好調な背景は前述の通りであるが、衣料品などの季節商材も、11月に気温が下がり始めてから、堅調に推移しているとの声が聞かれている。小売販売金額の減速も一時的なものとして見ていだろう。

消費者マインドは2ヶ月ぶりに大幅悪化

10月の消費動向調査によると、消費者態度指数は、前月差▲4.2ptと2ヶ月ぶりに大幅に悪化した(図表4)。前月大きく改善した反動もあるが、物価上昇率に比べて賃金の伸び率が低い状態が続いていること、10月に入り消費税率引き上げが正式に決定したことが、消費者マインドを悪化させた可能性があるだろう。ただし、11月に入り株価は年初来高値を更新していることなどから、消費者マインドの悪化は一時的なものであり、高水準での推移が続くと考えている。

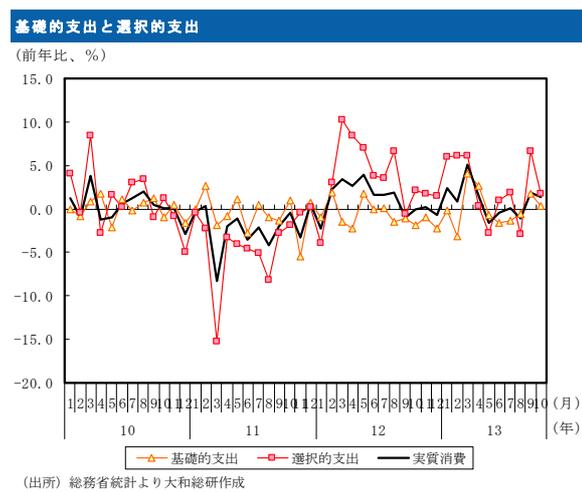
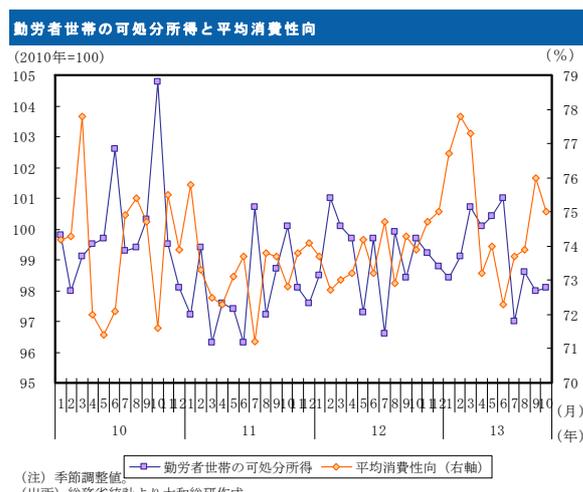
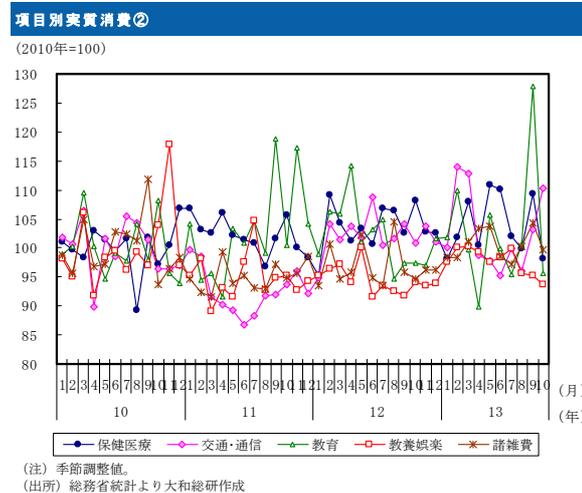
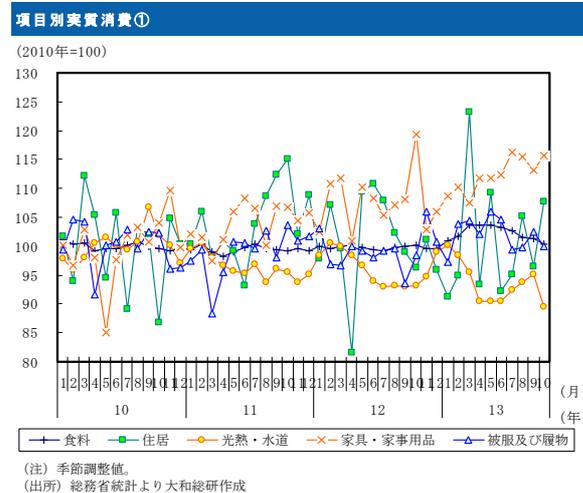
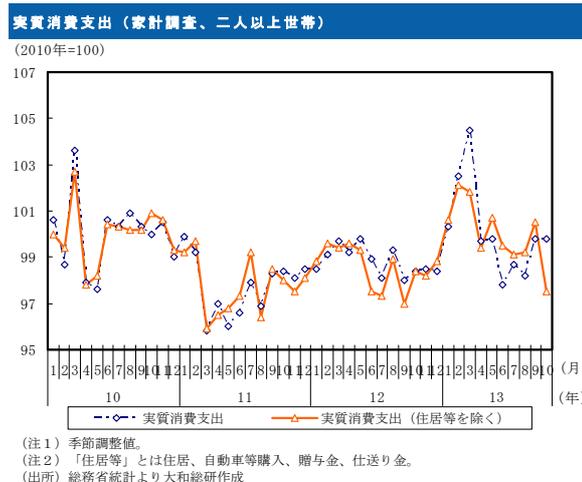
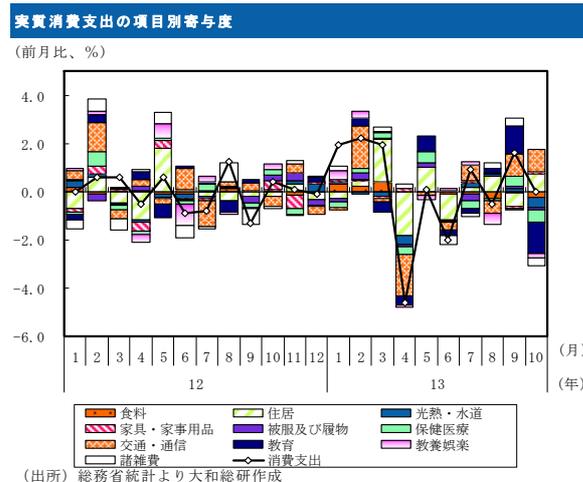
図表4：消費者マインドの推移



10月の消費減速は一時的なものとする。11月以降は増勢を強める見込み

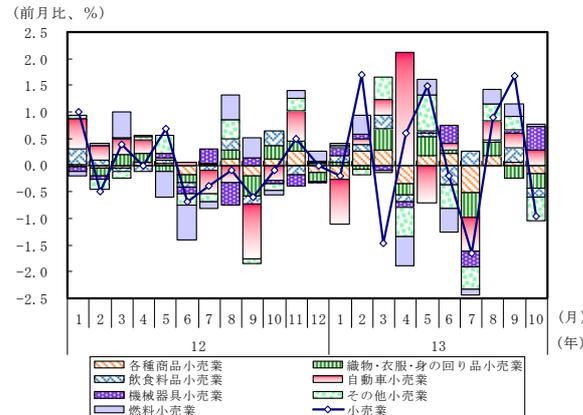
10月の個人消費は悪化したものの、前月大幅に増加した反動や、天候要因の影響が大きいと考えている。消費の減少は一時的なものだろう。11月には、天候要因による影響が剥落すること、2014年4月に予定されている消費税増税前の駆け込み需要も徐々に発現し始めることから、個人消費は増勢を強めていく見込みである。

消費・概況①



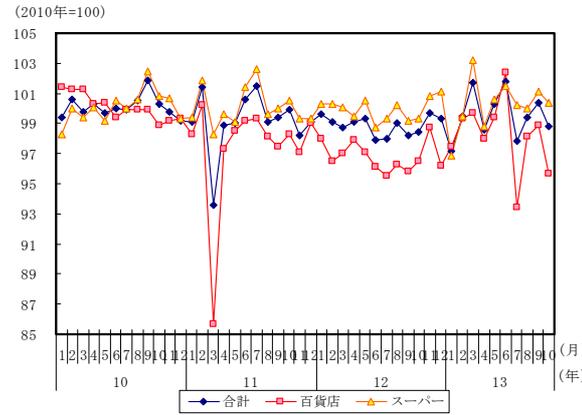
消費・概況②

商業販売統計小売業販売額の推移



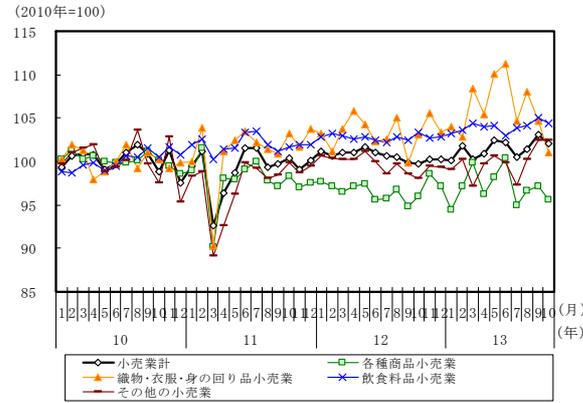
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

大型小売店業態別商品販売額



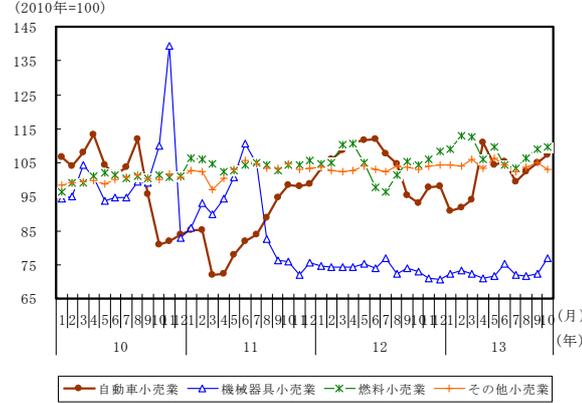
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

業種別小売販売①



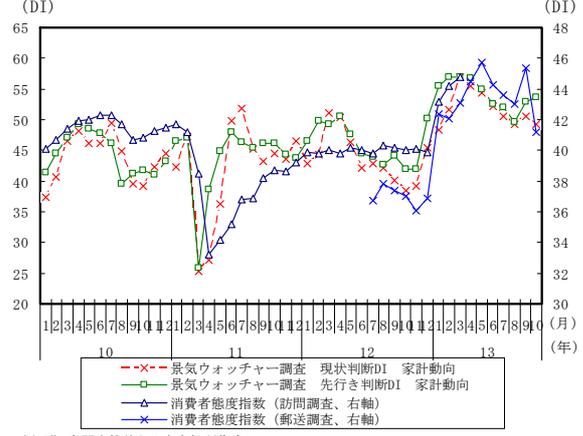
(注) その他の小売業は自動車小売業、機械器具小売業、燃料小売業、その他小売業。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

業種別小売販売②



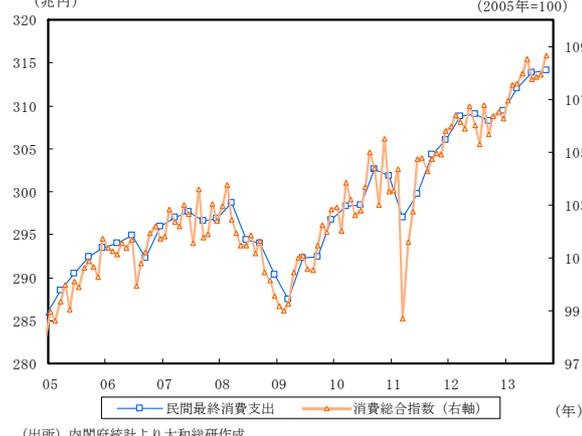
(注) その他の小売業は二輪自動車小売業、自転車小売業、家具・じゅう器小売業など。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

消費者マインド



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

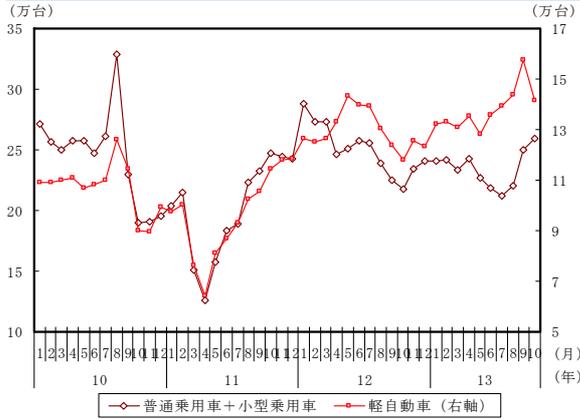
GDPベースの民間最終消費支出と消費総合指数



(出所) 内閣府統計より大和総研作成

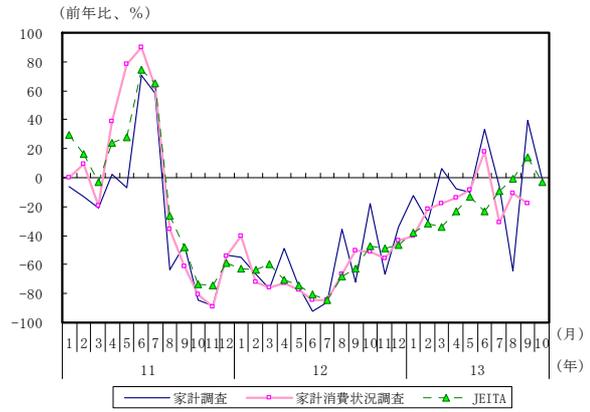
消費・協会統計

新車販売台数



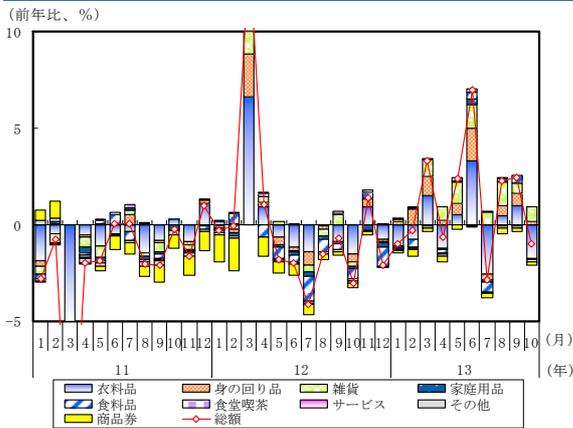
(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

テレビ消費額と出荷台数



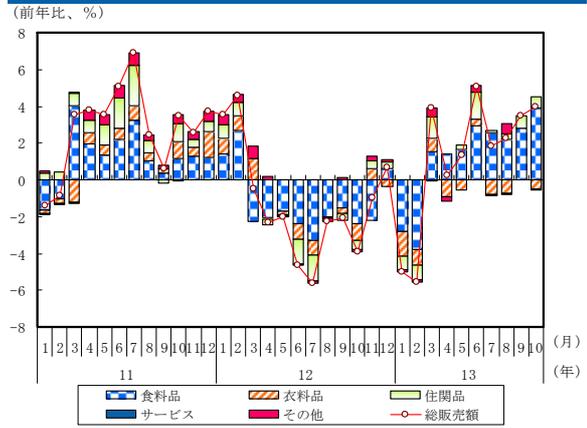
(注) 家計調査と家計消費状況調査の値は当該CPIで実質化。
(出所) JEITA、総務省統計より作成

百貨店売上の寄与度分解 (品目別、全店舗ベース)



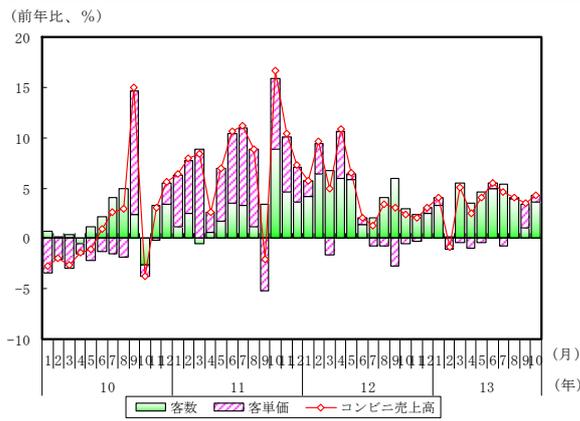
(出所) 日本百貨店協会統計より大和総研作成

スーパー売上の寄与度分解 (品目別、全店舗ベース)



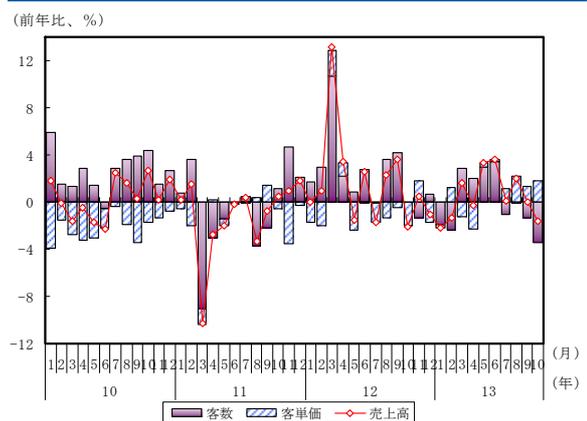
(出所) 日本チェーンストア協会統計より大和総研作成

コンビニ売上高 (店舗数調整前)



(出所) 日本フランチャイズチェーン協会統計より大和総研作成

外食市場売上高



(出所) 日本フードサービス協会統計より大和総研作成